

2021

10/5 (火) 開催

2021年

町田市行政経営監理委員会 報告書

町田市では、行政経営改革を着実に推進していくことを目的とし、外部の有識者である専門委員や市長・副市長等で構成する町田市行政経営監理委員会を設けています。

2021年度は「未来への投資と行政サービス改革 ～ まちだ未来づくりビジョン2040の実現に向けた次期5カ年の行政経営～」をテーマとし、これからの行政経営のあり方について、専門委員等から提言・提案をいただきました。



【日時】

2021年10月5日（火）10時00分～12時00分

【会場】

町田市庁舎3階会議室

【出席者】

委員)

岡本正耿委員、山本清委員、佐藤主光委員

石阪丈一市長、高橋豊副市長、赤塚慎一副市長

幹事)

小池晃政策経営部長、黒田豊経営改革室長、高橋晃総務部長、井上誠財務部長

【事務局】

政策経営部経営改革室

目次

テーマ：「未来への投資と行政サービス改革」

～まちだ未来づくりビジョン2040の実現に向けた次期5カ年の行政経営～

第1部 まちだ未来づくりビジョン2040について

- 1 まちだ未来づくりビジョン2040の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - (1) まちだ未来づくりビジョン2040の構成・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - (2) まちだ未来づくりビジョン2040の体系・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - (3) まちだ未来づくりビジョン2040の期間・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 2 まちだ未来づくりビジョン2040の特長・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

第2部 経営基本方針に基づく取り組み

- 1 これまでの経営基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 2 まちだ未来づくりビジョン2040における経営基本方針・・・・・・・・ 10
 - (1) 経営基本方針1 ～ 共創で新たな価値を創造する ～ ・・・・・・・・ 12
 - (2) 経営基本方針2 ～ 対話を通して市役所能力を高める ～ ・・・・ 17
 - (3) 経営基本方針3 ～ 次世代につなぐ財政基盤を確立する ～ ・・・・ 25
- 3 未来に向けた行政経営の展開イメージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
 - ～ 委員間での意見交換 ～・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

※本報告書は、ホームページでもご覧いただけます。

<https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/gyousei/keiei/gyouseikeieikanri13-/index.html>

◆ 石阪市長挨拶

本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

また、岡本委員、山本委員、佐藤委員には、今年度も継続して専門委員としてご尽力いただけることを、改めて感謝申し上げます。

さて、2021年度のテーマは、「未来への投資と行政サービス改革」といたしました。町田市では、2022年度から始まる新たな基本構想・基本計画である「まちだ未来づくりビジョン2040」を策定し、2021年6月の市議会においても承認をいただいたところです。今から20年後の2040年における未来の暮らしを見据え、町田市の“なりたい未来”に向けて、未来への投資を着実に実践していかなければなりません。

一方では、新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの生活を脅かし、社会経済に大きな影響を与えています。また、デジタル技術を活用した改革の潮流は、将来的に国・都道府県・市町村の3層による行政構造の枠組み自体を変えていくのではないかと考えています。そして、住民基本台帳の管理や課税所得の認定の仕事が市町村の基礎業務としてありますが、それを担っている基礎自治体のあり方そのものがデジタル化により、大きく変わるのではないかと考えています。

行政を取り巻く環境は、不確実性が高く、先行きを見通しにくい社会情勢であるとともに、財政面においても厳しい状況でございます。そのため私どもとしましては、これまでにない大胆かつ柔軟な発想をもって、事業の展開や行政経営に取り組んでいきたいと考えています。

このかつてない難局を乗り越え、新たな時代にふさわしい行政経営について、専門委員のみなさま方と、忌憚のない意見交換が出来ればと思います。

本日は、短い時間ではありますが、どうぞよろしく願いいたします。

第1部 まちだ未来づくりビジョン2040について

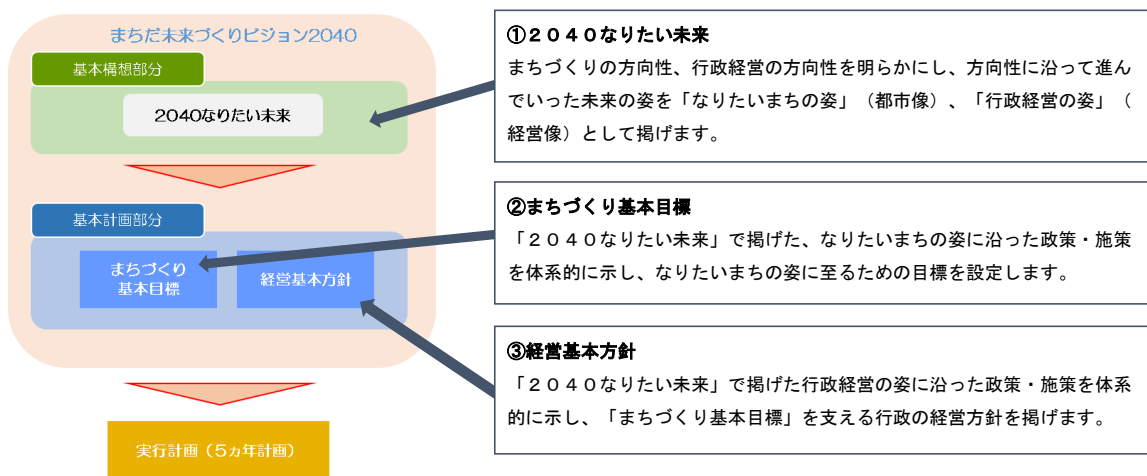
(1) まちだ未来づくりビジョン2040の概要

1 まちだ未来づくりビジョン2040の概要

資料編:4~7頁

(1)まちだ未来づくりビジョン2040の構成

町田市における次期の基本構想・基本計画である「まちだ未来づくりビジョン2040」は、基本構想部分を担う「2040なりたい未来」と基本計画部分を担う「まちづくり基本目標」及び「経営基本方針」で構成されます。また、ビジョンの実現に向けて、具体的な事業と取り組みを示す実行計画（5ヵ年計画）を策定します。



4

まちだ未来づくりビジョン2040の構成について説明します。

本ビジョンは、基本構想部分である「①2040なりたい未来」で、まちづくりの方向性と行政経営の方向性を明らかにし、その方向性に沿って進んでいった未来の姿を都市像と経営像を掲げています。そして基本計画部分である「②まちづくり基本目標」で、なりたいまちの姿に沿った政策・施策を体系的に示し、なりたいまちの姿に至るための目標を設定するとともに、「③経営基本方針」で、行政経営の姿に沿った政策・施策を体系的に示し、「まちづくり基本目標」を支える行政の経営方針を掲げています。

1 まちだ未来づくりビジョン2040の概要

(2)まちだ未来づくりビジョン2040の体系

まちづくり基本目標

ライフステージ (概ねの年齢)	胎児期・幼年期 (0-5歳)	少年期 (6-18歳)	青年期 (19-44歳)	中年期 (45-64歳)	高年期 (65歳～)
政策	1 赤ちゃんに選ばれる まちになる	2 未来を生きる力を 育み合うまちになる	3 自分らしい場所・時間 を持てるまちになる	4 いくつになっても自分の 楽しみが見つかるまちになる	5 人生の豊かさを実感 できるまちになる
施策	魅力ある子育て環境をつくる 多様な保育サービス を提供する	子どもが自分らしく 育つ場を提供する 学ぶ意欲を育てる 教育環境を充実させる 地域の教育力を高める	ビジネスしやすく、 働きやすい環境をつくる 町田ならではの 地域資源をいかす	生涯にわたる学習の 「しやすさ」を支援する スポーツへの参加機会を 充実させる	高齢者が地域でいきいきと 暮らせる環境をつくる 高齢者を地域で支える 体制をつくる

ライフステージ (概ねの年齢)	全世代に向けて			
政策	6 つながりを力にする まちになる	7 ありのまま自分を 表現できるまちになる	8 思わず出歩きたくなる まちになる	9 みんなが安心できる 強いまちになる
施策	つながり、支え合える 基盤をつくる みんなで将来に受け継ぐ 持続可能な環境をつくる	一人ひとりの個性を 大切にす地域をつくる 文化芸術に頼しめる 環境・機会を充実させる	気軽に出かけて つながれる環境をつくる ライフスタイルに合わせて自分 らしくまちを使えるようにする 健やかで心地よい時間を 過ごせる環境をつくる	ひと・まちを災害に強くする 地域の安全を守る 市民の健康を守る

経営基本方針

経営基本方針はまちづくり基本目標の実現を支えます

政策	共創で新たな価値を 創造する	対話を通して 市役所能力を高める	次世代につなぐ 財政基盤を確立する
施策	情報の双方向性を高める 行政サービスの デジタル化を推進する 多様な主体との 協力体制を強化する	強しなやかな組織を 構築する 未来を創る職員を育てる	持続可能な財政基盤づくりを 推進する 市有財産を利活用する

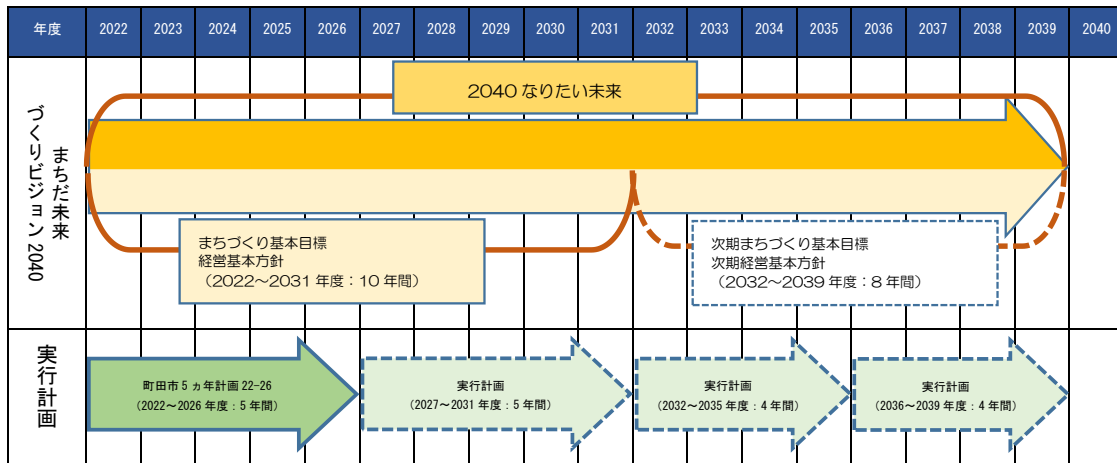
5

まちだ未来づくりビジョン2040の体系について説明します。胎児期・幼年期から高年期まで、年齢ごとに政策を5つに区分するとともに、全世代に向けた政策を4つに区分し、ライフステージを意識した特徴的な計画体系としています。また、まちづくり基本目標の実現を支える経営基本方針で構成しています。

1 まちだ未来づくりビジョン2040の概要

(3)まちだ未来づくりビジョン2040の期間

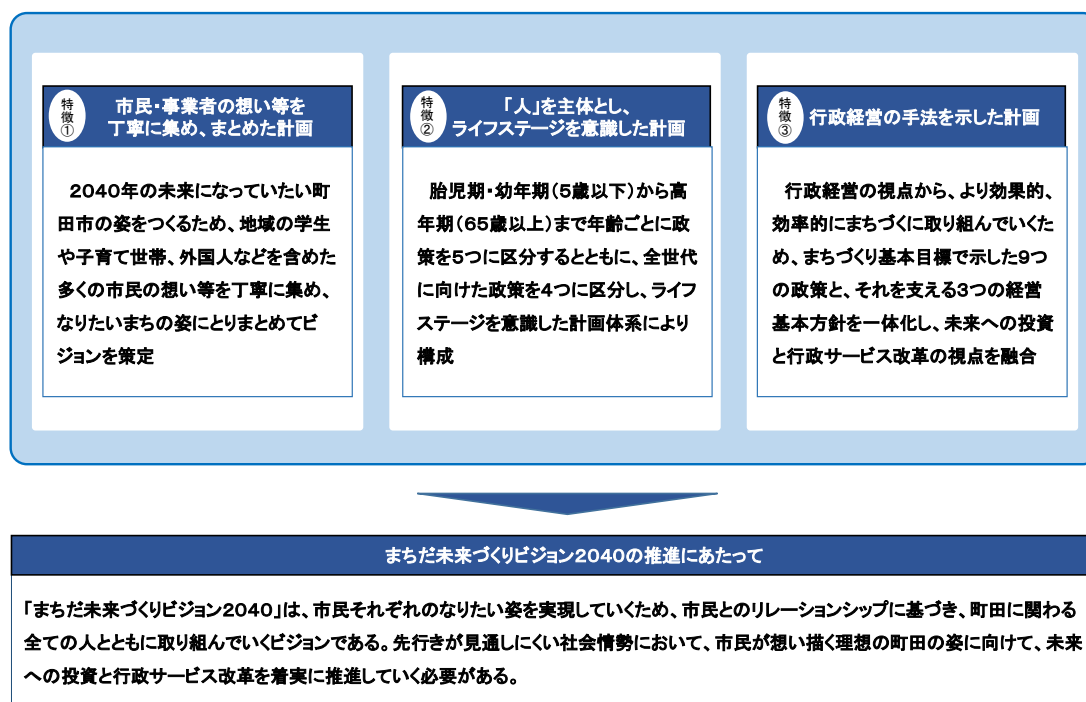
基本構想部分を担う「2040なりたい未来」は、2022年度から2039年度までの18年間、基本計画部分を担う「まちづくり基本目標」及び「経営基本方針」は、2022年度から2031年度までの10年間と、2032年度から2039年度までの8年間とします。



まちだ未来づくりビジョン2040の期間について説明します。基本構想部分を担う「2040なりたい未来」は、2022年度から2039年度までの18年間、基本計画部分を担う「まちづくり基本目標」及び「経営基本方針」は、2022年度から2031年度までの10年間と、2032年度から2039年度までの8年間です。

(2) まちだ未来づくりビジョン2040の特徴

2 まちだ未来づくりビジョン2040の特徴



7

まちだ未来づくりビジョン2040の特徴について説明します。本ビジョンには、3つの大きな特徴があります。1つ目は「市民・事業者の思いなどを丁寧に集め、まとめた計画」であること、2つ目は「ライフステージを意識した計画」であること、3つ目は「行政経営の手法を示した計画」であることです。

本ビジョンは、市民それぞれのなりたい姿を実現していくため、市民とのリレーションシップに基づき、町田に関わる全ての人とともに取り組んでいくビジョンです。市民のみなさまが思い描く理想の町田の姿に向けて、未来への投資と行政サービス改革を着実に推進していく必要があります。

【高橋副市長】

- デジタル技術の進展や世の中の消費動向の転換など、まさに変革の時を迎えている中において、市は社会経済状況や人々のライフスタイルの変化を大きなチャンスとして捉え、事業展開や行政経営にあたらなければならない。
- 時代の変化を真摯に受け止め、どれだけ「未来につなげる投資」を実行することができるのかにより、今後の行政サービスに大きな違いが生まれてくると感じている。
- 2022年度からスタートする「まちだ未来づくりビジョン2040」は、市民や地域団体、市内事業者など町田市に関わるすべての方々が、共に実現を目指していく将来都市像であり、市政運営の基本コンセプトとなるものである。
- 新たに目指す町田市の“なりたい未来”に向けて、一人ひとりがなりたい未来に向かってまちづくりを進めていくことが重要になってくると考えている。

私からは、補足という形で本ビジョンを策定するうえでの考え方について改めてお話しをさせていただきたいと思います。

この10月から緊急事態宣言は解除されたところではありますが、日本国内におけるコロナ禍は、今なお続いており、社会経済の構造そのものが大きく変化する潮流をむかえるなど、不確実性が高く、先行きの見えない情勢となっています。

一方、先ほどの事務局からの説明にもありましたが、デジタル技術の急速な進展は、より多様で柔軟な働き方ができる社会を実現させています。また、世の中の消費動向が“モノ”から“コト”へと転換し、さらには時間や目的の共有を重視する方向へシフトするなど、まさに変革の時を迎えています。

そのような中、我々基礎自治体は、社会経済状況や人々のライフスタイルの変化を大きなチャンスと捉え、改めて市民目線の行政経営に立ち返り、一人ひとりが自分事として、大胆かつ柔軟な発想をもって事業展開や行政経営にあたらなければならないと思います。

今、この時代の変化をどれだけ真摯に受け止めて未来につなげる投資を実行できるか、これにより今後の自治体間の行政サービスには大きな違いが生まれ

てくると感じています。

2022年度から「まちだ未来づくりビジョン2040」がスタートします。本ビジョンは、2040年という未来に向け、市民や地域団体、市内事業者など、町田市に関わるすべての方々が、共に実現を目指していく将来都市像であり、まちづくりの基本指針を示すとともに、市政運営の基本コンセプトとなるものです。

基本構想は実に18年ぶり、基本計画は10年ぶりの改定となります。この間にすごく時代が変わってきたのではないかと感じています。町田市にとって大きな節目の時を迎えることとなりますので、新たに目指す町田市の“なりたい未来”に向けて、職員一人ひとり、市民一人ひとりがなりたい未来を想定して、それに向かってまちづくりを進めていくことがすごく重要になってくるのではないかと感じています。

まちづくりの方向性と行政経営の方向性に沿った未来への投資を、時機を逸することなく行い、時代に即した行政サービスを展開していくことで、市民から信頼される市役所を目指し、このような考え方に基づくビジョンを策定いたしました。